

令和2年度 第2回木更津市子ども・子育て会議

議事録

日時：令和2年10月20日（火）午後2時00分～午後3時15分

場所：木更津市役所 朝日庁舎 A1,A2会議室

次第

1. 開会

2. 議題

（1）子ども・子育て支援事業計画の変更について

（2）新制度幼稚園への移行及び民間保育施設の創設について

3. その他

4. 閉会

【議事内容】

1. 開会

事務局

○令和2年度第2回木更津市子ども・子育て会議を開会します。附属機関設置条例第6条の規定により、議長は会長が務めることとなっておりますので、平野会長お願いします。

平野会長

○本日の審議会の出席委員は14名で、過半数に達しており、会議は成立します。なお、欠席委員は2名です。本審議会は「木更津市審議会等の会議の公開に関する条例」における「審議会等」にあたることから、同条例第3条の規定により、原則公開となります。会議録は、同条例第9条の規定により、個人情報等の不開示情報に留意して、公表します。なお、会議録の調整方法については、要点記録とし、発言に係る委員名は記載する取り扱いとします。
傍聴人はいないとのことです。

2. 議題

議題（1）子ども・子育て支援事業計画の変更（案）について

平野会長

○議題1『子ども・子育て支援事業計画の変更案について』、事務局から説明願います。

事務局

○第1回会議におきまして、みやまのさくら保育園、清和大学附属金田幼稚園、高柳幼稚園の3園が、令和3年度から認定こども園へ移行することについて、議題としました。今回は、3園の認定こども園移行による定員の変更に伴い、子ども・子育て支援事業計画上の、教育及び保育の提供量の修正について、修正案を作成しました。

資料1に記載されている3園が令和3年4月から、認定こども園へ移行する予定となっております。

みやまのさくら保育園ですが、新たに1号定員を6名新設予定です。2号、3号については変更ありません。

清和大学附属金田幼稚園ですが、1号定員を135名へ変更し、新たに2号定員を30名新設予定です。3号の設定はありません。

高柳幼稚園ですが、新たに2号定員を15名新設予定です。こちらも3号の設定は

ありません。

資料の2ページ目、教育の提供量は、1号定員が合計41名増加することに伴い、令和3年度以降の1号認定の提供量を、記載のとおり修正しました。

資料の3ページ目、保育の提供量は、2号定員が45名増加することに伴い、令和3年度以降の2号定員の提供量を、記載のとおり修正しました。

平野会長

○前回会議で、現状での供給量とニーズに係る意見として、待機児童が発生していない年齢の定員設定について、いかがなものかという意見が出ておりましたが、この該当する3園に対して、事務局からそのような意見があるということを伝えていきますか。

事務局

○市からは伝えていません。

平野会長

○事業計画の変更に係る事項なので、前回会議では皆様から意見をいただきました。それを伝えた上で事業計画の変更を本日の議題にしているということであれば、審議をいただくところですが、このことについて確認していないで、事業計画の変更の審議に入ってもよろしいのでしょうか。

事務局

○年度当初においては3歳児でも待機児童が発生しており、待機児童は増えている状況でありますので、2号認定部分を増やしていく必要性はあると考えています。

平野会長

○議題2においても、新たな保育施設の創設についてとありますが、該当する施設に行政として本日の会議の意見を伝えする考えはありますか？

事務局

○議題2の施設につきましては、相談を受けている段階で、前回会議の話もしていますので、本日の会議での意見も伝える予定です。

平野会長

○議題1について意見がありますか。

宮崎委員

○川崎などから移ってきたお母さんから、空いている保育園に行くしかない、全く選ばないという声を聞きます。それに対して市はどう受け止めていますか。

事務局

○なかなか希望の園に入れたいという声はいただいており、特に1歳児で入園を希望

される方の待機児童が多く発生している状況です。計画においても3号認定の1～2歳の部分で供給と提供が大きく差が開いていると実感しています。

宮崎委員

○市の現場の印象として、ここ1、2年間で状況は改善されつつありますか。

事務局

○小規模園も新たに開園されており、以前に比べて状況が変わっていないわけではないのですが、不足しているという印象です。

○木更津市は、人口が増え続けており、若い世代にも来てもらいたい。そのためには、保育園に入れないという状況は望ましくないのですが、現実には待機児童が出ております。いつでもどこかの園には入れるということが大事になりますが、少し余裕のあるくらいの提供量が望ましいと考えます。

堀口委員

○改めて確認ですが、この会議の場でどこまでの意見を求めているのかをお伺いしたい。

事務局

○この会議におきましては、この3案の変更による供給量を決めていただけたらと思います。

堀口委員

○保育園の施設整備が進んできているところですが、現状として保育士の確保が非常に困難な状況です。公立保育園も保育士の確保が難しく、受け入れがままならない実態がありますが、この計画上に反映されているものなのかどうかお聞きしたい。

事務局

○保育部分につきましては、経年で計算しておりますので、公立保育園としましては、ここに書いてある提供が今現在できていない状況です。

宮崎委員

○令和3年4月からの吾妻保育園の運営準備を進めています。45年前に吾妻保育園が新設された時の定員は120人だったので、実質的な園舎自体の容量という点では、現在の定員は60人ですが、あと60人程度は受け入れられます。それぞれ民営化園もあり、定員の変更申請はできます。もちろんそれには職員がいるかという問題は残りますが、やらせていただくことは可能です。

徳永委員

○毎年、清和大学の卒業生は就職できている状態なのですが、保育士は、幼稚園・保育園だけでなく、施設にも就職しており、施設でも人手が足りない状態です。それを踏まえて新しい園を作っていないと、なかなか稼働せず、待機児童解消にはつながらないと思います。

高橋委員

○八幡台地区の保護者の方からは、仕事の状況に合わせて保育園を選べない状況があるという声があがっています。全てのニーズに答えていくのは厳しいと思いますが、状況に合わせていく必要があると思います。

松井委員

○待機児童の問題については、しっかりとフォローしていかなければいけないと思っています。実働資源の確保が難しいのであれば、保育の仕事について魅力があるか、賃金も含め、考えていくべきだと思います。

藤平委員

○自分の経験では、仕事をする為に、子どもを保育園にお願いしたいという一心で、園を選ぶということはあまり考えませんでした。選べるのだなというのが正直な感想です。

鈴木委員

○待機児童など色々な問題がありますが、子どもから、高齢者まで木更津市に住んでいて良かったと思ってもらえるよう、協議していきたいと思います。

齋藤委員

○昨年度まで、赤ちゃん訪問という形で主任児童委員が家庭を回る機会がありました。請西、真舟、金田地区で、数が増えており、地域によって偏りがあります。何年かするとその子達が保育園に入ることになりますので、母が送迎するにあたっては、生活に近いところが、望ましいと感じています。

重城委員

○産科では、お産が減っている現状があるのに、待機児童が増えているということは、お母さん達が仕事をしなくてはいけないという現状があるのかもしれませんが、また、時代的に一人ひとりの子に対して、教育に力を入れており、そこに携わっている人たちは大変だと思います。できることは色々協力していきたいと思います。

成田委員

○市内で療育施設を2カ所行わせていただいています。いかに早く見つけてあげて、支援に入れるかを大事にしています。もう一つ大事なのが、保育園、幼稚園におい

て、気になる子だったり、言葉が遅かったりする子は、保育園等との併用をしていただきたいと思います。週に3日は療育施設に通い、残り2日は保育園、幼稚園に通うなど、両方を経験していただきたいと思います。実際、保育園、幼稚園に行く日数を増やしたほうが良い思った時に、職員が足りないという理由で断られるという事象があり、保育士の確保というところが、課題になっていると感じています。市内にすばらしい、保育園、幼稚園が沢山あり、療育の必要なお子さんに両方の良い所を提供できたら良いと思っています。

林委員

○上の子を現在わかば保育園に通わせており、来年度から下の子の入園を考えているのですが、上の子と同じ園に入園できるかという不安があります。きょうだいで、同じ園に入れたいと思っている方は多いかと思えます。そういったところを考えていただければと思います。

白石委員

○支援センターでも、だんだんお母さんの職場復帰が早まっていると感じています。お子さんが半年を過ぎると保育園の話題があがってきますし、1歳を目途に復帰されるという方が多いです。復帰される理由を尋ねると、3年育休が取れるという企業も多いですが、先々を見据えて1歳で保育園に入らないと入りづらくなるとか、経済的に厳しいのでという声もあります。あと、親元で育てるのが不安という方も多くなっています。どこか所属機関があって、二人三脚で育てていくという時代に入っていると感じています。きょうだいで同じ保育園に入れるか心配されている人も多く、負担も大きいので配慮があったら良いと思っています。

平野会長

○昨年第2次事業計画を策定しましたが、微調整をする必要があり、この会議で事業計画変更について、昨年取りまとめましたが、10月から幼児教育・保育の無償化が始まり、事業者・学校法人・社会福祉法人を含め、無償化による事業展開を考慮していると感じられます。この議題1に関する事業計画の変更について、賛否をとりたいと思います。事業計画の変更賛成の方は挙手をお願い致します。

(※全員一致で賛成)

議題（２）新制度幼稚園への移行及び民間保育施設の創設について

平野会長

○議題２『新制度幼稚園への移行及び民間保育施設の創設について』事務局から説明
願います。

事務局

○資料２をご覧ください。新制度幼稚園への移行ですが、来年度から「きさらづ幼稚園」が移行する予定です。利用児童数に直近３年間の利用数を記載していますが、最近の利用者数の傾向を基に、来年度以降の利用定員数を９０名とする予定です。尚、現在、市内の幼稚園で新制度に移行している園は清和大学附属金田幼稚園のみとなっています。

２ページ目、「小規模保育園の創設について」です。令和３年５月に、金田西地区に小規模保育園の新規開園が予定されております。設置運営事業者は、株式会社ピココロです。こちらの法人は、現在市内で小規模保育園ココロなどを運営しています。定員は１９名の予定です。内訳は、０歳が５名、１歳が７名、２歳が７名となる予定です。園舎の建築は、自己資金により行うとのことですので、補助金の活用はありません。卒園後の受け皿となる連携施設ですが、現時点では未定です。

３ページ目、もう１園、「小規模保育園の創設について」の説明となります。令和３年１０月に、千束台の小規模保育園の開園が予定されています。設置運営事業者は、特定非営利活動法人 AlonAlon です。こちらの法人は障害を有する方への就労支援施設の運営などを行っています。定員は１９名で、内訳は０歳が３名、１歳が８名、２歳が８名です。園舎の建築にあたっては保育所等整備交付金を活用する予定です。卒園後の受け皿となる連携施設は現時点では未定です。

４ページ目「認可保育園の創設」に移ります。令和４年４月に、金田西地区に認可保育園の開園が予定されています。設置運営事業者は株式会社スクルドアンドカンパニーです。こちらの法人は、三井アウトレットパーク木更津内にあります、企業主導型保育施設「うみかぜ保育園」のほか、袖ヶ浦市や君津市などで小規模保育園の運営を行っています。定員は７０名の予定です。内訳は０歳が６名、１，２歳が１１名ずつ、３～５歳が１４名ずつとなっています。整備にあたっては、保育対策総合支援事業費補助金を活用し、保育所等改修費等支援事業として賃貸物件の改修を行う予定です。

５ページ目、新設ではありませんが来年度から幼保連携型認定こども園木更津むつみ保育園の園舎老朽化に伴う改修が予定されております。利用定員につきましては、現在は１号から３号認定合計１６０名ですが、新園舎完成後の令和５年度からは、

合計151名とする予定です。内訳ですが、現在、1号にあたる3歳児が4名、4歳児が4名、5歳児が5名の計13名のところ、3歳児と4歳児を1名ずつ増員し、5名ずつの計15名となります。2号にあたる3歳児が26名、4歳児が30名、5歳児が30名の計86名のところ、3歳児を1名、4歳児を5名、5歳児を5名減員し、計75名へ。3号定員は変更なく、0歳から2歳児で計61名、合計で151名となります。今後のスケジュールですが、来年・再来年の2か年で仮設園舎の建設、既存園舎の解体、新園舎の建築工事を行い、令和5年2月に新園舎の建設が完了する予定です。尚、改修にあたっては、保育所等整備交付金及び認定こども園施設整備交付金を活用する予定です。

平野会長

○まず、参考資料につきまして説明します。1ページ目、就学前児童数ですが、これは4月1日現在の数字になっています。保育児童数は平成25年1,561名だったのが、令和2年は1,999名となっています。これは、うみまち保育園、みやまのさくら保育園や、小規模保育事業が開設されたことによります。年齢別児童数で0歳が944名と1,000名を割り込みました。人口は増えておりますが、出生数は減っております。それから就学前児童も減っております。2ページ目、今年度の保育園入所状況です。上段が認定こども園を含めた民間施設です。ほぼ定員を上回っています。下段が公立保育園です。請西保育園を除いて全て定員割れをしております。原因は、保育士確保が困難なための定員割れとなっております。このうち、吾妻保育園、中郷保育園、久津間保育園の3園が民間移管されます。民間移管されたとして、保育士を簡単に確保できるとは思っていませんが、保育士の確保できれば、入所率は大幅に改善されるものと思っています。4ページ目、木更津市幼稚園一覧ですが、令和2年5月1日の数字です。木更津市の12の幼稚園の園児数が1,998名。保育園児が1,999名なので、合わせると約4,000名の子どもが市内幼稚園、保育園に在籍しています。幼稚園については、他市からの園児も相当数在籍しているので、市内の子どもとは限定できないので、少し数字が変わる可能性があります。5ページ目は、就学前児童人口で、それぞれ中学校区の人数を出しています。金田中学校区が532名。千束台のある第2中学校区は市内で一番多い1572名となっています。6-1の資料は、各月待機児童数です。10月1日現在114名の待機児童がおります。昨年は125名ですから、10名程度減っていますが極端に減っているわけではありません。令和2年3月は200名が待機しており、4月には62名となっております。これは子どもが卒園し、施設に空き

が出たため、200名のうちの138名が入園できたという計算になっております。木更津市を子育てしやすい街として人口を呼び込むのであれば、せめて、4月には待機児童を0にしないといけないと思いますが、木更津市全体の供給量とニーズとの兼ね合いを図りながら、事業計画の検討をしていく必要があると思います。昨年度、第2期子ども・子育て事業計画を策定したばかりですので、次々に計画変更をするのは如何なものかと議長としては思います。この資料を基にしながら、議題2の審議に入っていきたいと思います。

宮崎委員

○変更にあたって、各施設の整備を市がどうするのかについてですが、前例としては東清団地があります。保育所が作られ、40年目で廃止になりました。業者が入って一斉に作った町は、一斉に人が入り、一斉に人が消えていきます。そういうことを東清でみてきているので、今の金田、千束台についても、市も予想しているのではないのでしょうか。

事務局

○千束台の AlonAlon が運営する事業につきましては、障害をお持ちのお子さんを一緒に受け入れる予定です。元々、障害をお持ちの方を受け入れて社会に送り出している法人ですので、理念的にはこのような保育事業があっても良いのではないかと考えています。金田地区のスクルドエンジェル保育園木更津ゲートウェイにつきましては、ゲートウェイヴィレッジの中にできる予定です。新昭和が土地を購入し、パーク施設ができるのに先立って、そこで働く人たちのために保育園を作る予定です。金田地区につきましては、新たな街、それから大きな施設があるということで、若い人に人気がある地区と認識しています。

平野会長

○70名定員で施設整備の補助金を使うとなると、簡単に撤退はできない。株式会社が運営すると施設整備の交付金は出ないはずで。社会福祉法人を設立して運営するのでしょうか。

事務局

○確認します。

平野会長

○先ほどの話からすると、相談を受けている段階だと認識しています。これらのことがさらに事業計画の変更に載ってくるのは先の話になるのかと思います。金田中学校区の資料を見る限りでは急激に人口が伸びている現状ですが、すでに開園されている、堀口委員、桐谷委員に実情をお聞きしたい。

堀口委員

○今年度、うみまち保育園をスタートし、非常に問合せが多くなっております。4月当初は61名だった園児が、今は90名近く在籍しています。保育士が揃えば、定員が充足されていくと思われれます。土地柄、アウトレットやコストコなどに就労される方の入園が多いと思っていたのですが、実際は金田地区の方々がほとんどでした。自宅の周りの保育園を希望される方がほとんどだという印象を受けています。地域的には、東京、神奈川から移って来ている方が増えており、その方達からは、木更津市の保育園は、非常に充実しているという声もいただいています。

桐谷委員

○15日に入園説明会を行い、参加者が60名と、未だかつてない人数の多さでした。入園希望理由のアンケートによると、東京・川崎に通勤するのに預けるといった方は少なく、「近いから」という理由の方が一番多かったです。その他としては保護者が卒園生、教育理念が気に入ったという理由の方もありました。人数が増え、今度は定員オーバーで入園をお断りすることにもなります。保育士が足りないのは幼稚園教育においても感じており、幼稚園に勤務している者も出産後、保育園に入ることができず、職場復帰できない方が3名中2名います。保育園、幼稚園教諭の確保は大変だと思います。

平野会長

○金田地区は、急激に町が発展し、人口が増えているということや、住まわれる方達のニーズが高いということも一つ念頭に置いておかなければいけないと思います。ただ、木更津市全体についても考えていく必要があります、定員割れをおこなっている公立保育園がある一方で、新たな認可保育園を作り、どのようにバランスとっていくのか。まち・ひと・しごと創生会議においても、未来予想図を作ったはずです。

子ども・子育て会議は事業計画を立案する場でもありますが、子ども・子育て分野について行政から意見を求められ、審議をしてお答えするという立ち位置にあります。

今後もこのように新たな街ができれば、保育ニーズが生まれるのは当然ですが、木更津市全体を考えた需要と供給のバランスをどう考えるか。方向性をこの審議会で示していきたいと思っております。今後10年間の子ども・子育てに関する意見を取りまとめて出したいと思っておりますが、これは、議長としての一存ではできませんので、会議の最後に皆様方にお尋ねしたいと思っております。

それでは議題2にうつります。学校法人きさらづ学園の新制度幼稚園の移行について。新制度移行によって、利用定員が90名にすることは、実績を下回ることに

なりますが、このことについてはどのようにお聞きになっておりますか。

事務局

○近年、児童数が減少傾向になるということから、90名とさせていただきたいと、木更津幼稚園からお話を伺いました。

平野会長

○では、承知していらっしゃるということですね。これは、供給量が減るということで、事業計画でも載ってくるということですね。次に、AlonAlon が運営する小規模保育事業ですが、成田委員はこの園の情報について何か話を伺っていますか。

成田委員

○特に子どもは聞いていないのですが、連携予定施設が無いというところが気になります。小規模保育事業所に通園中のお子さんをお預かりしていますが、3歳になり、来年4月から通園する保育園が見つからないという声もあります。

平野会長

○小規模保育事業については市町村が認可を出していますが、連携施設が無いということとは認可の条件を満たしていないということになります。ただ、5歳児まで小規模保育事業で預かることもあります。1、2歳児に比べて年齢が上の児の給付金はぐっと下がりますので19の枠の中で、3歳児以上が増えると厳しいため、連携施設は必要となってきます。連携施設の予定が無い所は、事務局として確認をとっていただきたい。確認をお願いします。資料の2-5民間保育園の改築ですが、改築がこの会議にかけられているということは、定員が変わるということかと。このことについて事務局からお願いします。

事務局

○事業者のほうからは、これから先のことを考えれば、子どもの数は減少傾向にあり、今回建物を建て替えるにあたって、定員を見直したいというところでご相談をいただいたところです。

平野会長

○金田地区は金田幼稚園、うみまち保育園では受け入れられないほどのニーズがあるということは伺えました。そのことは認識しておく必要があります。あくまでもここは需要と供給のバランスをとるのが事業計画の目的でありましたが、木更津市全体を考えてどうするのかということ議論しなければなりません。久津間、中郷、吾妻保育園も近隣といえば近隣です。それらの施設は大幅に定員割れを起こしておりますので、その辺をどうしていくのかという議論もあります。林委員から、意見がありましたが、きょうだいが別々の保育園に通うという問題も発生しています。特に4月に多く発生していま

す。

この議案2につきましては、行政と関係する法人とが協議し、事業計画の変更に係るかということをはっきりさせ、需要と供給について方向性を決めていただきたい。

本市では、3歳の教育保育ニーズが高まっている現実もあり、将来人口想定、就学前児童数の算定、女性の就業率により、人口減少の中にあっても、保育ニーズの上昇が十分考えられます。

今回、第2期の子ども子育て支援事業計画を1年半かけて策定しましたが、ほぼ出来上がった段階で幼児教育保育無償化が決まり、劇的な変化が起きています。これらの状況を踏まえて、見込まれるニーズをもう一度検証する必要があることから、子ども・子育て会議から教育保育の需要と供給の考え方について意見書のようなものを作成していきたいと思いますがいかがでしょうか。

その際には、委員の皆さまからご意見をいただき、作成していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(閉会)